

表紙について 神鍋高原のリンゴ園

神鍋高原のリンゴ栽培は現在2軒で行われています。そのうちの1軒の方にお話を伺いました。

リンゴ栽培を始めて約40年、栽培が始まった昭和55年ごろは、神鍋高原に来られる観光客は冬のスキー、夏のキャンプなどの合宿に限られていました。

その時期を過ぎるとめっきり観光客が少なくなるので、年間を通して神鍋高原を訪れていただくために観光の目玉が何かないかと考え、リンゴ栽培及び観光農園をされたとのことでした。

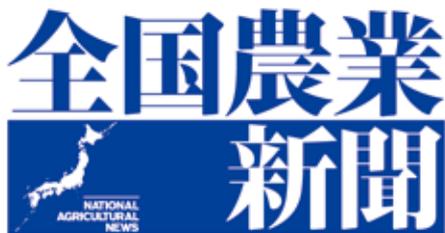
現在では、8月下旬から12月頃までの期間収穫ができる神鍋高原の気候に合う品種を栽培されています。

8月下旬から“つがる”、9月下旬から“ひめかみ”、10月初旬から“神鍋スイート”、11月初旬から“ふじ”等、代表的なリンゴ収穫をされています。

今後少しでも多くの人々に知っていただき、おいしいリンゴを作っていきたいとのことでした。

神鍋高原に来られた際は、おいしいリンゴを食べにいかれてはいかがでしょうか。

(農業委員 宮岡 正則)



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは

農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

本年4月に、農業委員・農地利用最適化推進委員共に新たな体制でスタートいたしました。このような中、今回のとよおか農委だより第47号発行に向け、7人の農業委員が事務局の指導を得ながら進めてまいりました。委員の中には、編集委員会に初めて携わった方、何回か経験されてきた方など、さまざまですが、誰がどのような記事を担当するのか協議しながら、また皆様にとりまして「読み易く、読みがいのある記事」、をキーワードにそれぞれの経験・知識を生かし、モチベーションを高く保ちながら取り組むよう努めてまいりました。

この会報発行に際し、ご協力を頂きました方々、有難うございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。農業委員は、毎月定期的開催されます農業委員会総会で、農地法に基づく農地に関する事務を行います。それだけではなく、地域の方から相談を受けた時に、相談者と共々に事務局へ足を運び、一緒になって考え、といったことも大きな仕事だと思っております。中には、結果を導きだす事が非常に困難な事もありましたし、相談して良かったと喜んで頂いたこともありました。ありふれた言葉ではありますが、「相手の立場に立ち物事を考えていく」ことが重要な事だと、改めて認識させられました。
(編集委員長 石橋重利)



農業委員会だより第47号は私たちが担当しました。
後列左から 宮岡委員、森田委員、栗原委員、瀧下委員
前列左から 平峰委員、石橋委員、平野委員